

芦別・羽幌・富良野 決勝へ 合同チーム初

ラグビー

■道高校南・北選手権21日・芦別市なまこ山総合運動公園) 第2日は南・北大会の準決勝各2試合を行い、決勝は北大会が遠軽―芦別・羽幌・富良野の合同チーム、南大会が札山の手―函ラサールに決まった。北大会は、芦別・羽幌・

富良野の合同チームが中標津を14―12で下し、合同チームとしては南北通じて初めての決勝進出を果たした。遠軽は北見北斗を破り、2連覇へあと1勝とした。南大会は、函ラサールが昨年準優勝の立命館慶祥に零封勝ち。昨年王者の札山の手は札清田に大勝した。

決勝戦はいずれも、28日に札幌月寒ラグビー場で行われる。

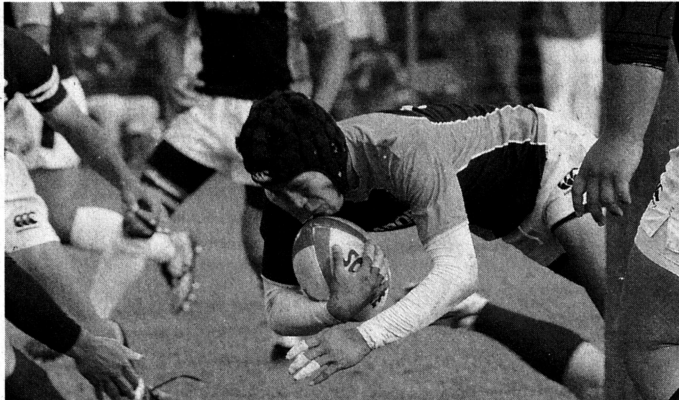
【南大会】▽準決勝

札山の手 101 4655 0 0 札清田
函ラサール 21 714 0 0 立命館慶祥

【北大会】▽準決勝

遠軽 60 3129 7 0 北見北斗
芦別・羽幌・富良野 14 77 75 12 中標津

苦米地 決死の同点トライ



後半終了間際、インゴールに飛び込み同点のトライを決める芦別・羽幌・富良野合同チームのF B苦米地(畠中直樹撮影)

「無我夢中で本当に何も覚えていない」。芦別・羽幌・富良野の合同チームの

F B苦米地(羽幌)が試合終了間際、中標津のゴール内にグラウンディングした

楢田球は涙でぬれていた。

5点を追う後半29分、苦米地に属子監督は「ボール持ったら迷わずアタックに行け」とげきを飛ばした。「もう負けると思ってプレー中に泣いてしまっていた」という苦米地の覚悟が決まった。

後半のラストプレー、ラックからボールを受け取ると、一目散に敵ゴールに走って飛び込み、白線の先へとボールを押し込んだ。

中標津に逆転を許した後半22分以降、合同チームは数度相手ゴール手前まで迫ったが、何度も反則を犯し、1トライが遠かった。

その都度、相手の攻撃を

防ぎ、すぐ攻撃に転じた。

「タックルを続けたことが結果につながった」と属子監督。合同チームゆえ5月のチーム結成から全体練習は十数回だけ。全体練習は少ない分、無料通信アプリLINE(ライン)などで連絡を取り合って、戦術を共有してきた。全国大会(大阪・花園ラグビー場)への執念が結果をたぐり寄せた。

規定の改正で昨年度から部員不足による合同チームも花園に出場できるようになった。「今は花園出場だけを目標している」(苦米地)。合同チーム初の決勝進出という快挙は通過点に過ぎない。(安沢悠太)